

5 領域とのつながりを明確化した支援内容①

< ① 健康・生活 >

児童発達/放課後等デイサービス・ネオライフ児童園

〜ねらい〜		
① 健康状態の維持・改善 ② 生活リズムや生活習慣の形成 ③ 基本的な生活リズムの獲得		
〜具体的な支援内容〜		支援プログラム <一例>
健康状態の把握	送り迎えの際、お子様の様子を視診しながら、必要に応じて保護者や学校の先生に体調確認を行いながら、支援中の体調の変化もきめ細かく見ていく。また、自身の健康について意識づけを行い、健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援していく。	・ 送り迎え時の体調確認・検温 ・ 散歩（季節を感じる・体力作り・経験を積み重ねる）
健康の増進	食事、排泄等の基本的な生活スキルを身につけられるよう身辺動作が自分でできていくように支援する。そこから、健康を維持していくために食べること、清潔にすること、排泄、体を動かすことなど意識できるようにしていく。また、病気の予防や安全への配慮を行なっていく。	・ 公園遊び （ジャングムジム・鉄棒・砂遊びなど） ・ 集団遊び（鬼ごっこ・だるまさんがころだ・夏：水遊びなど）
リハビリテーションの実施	それぞれのお子様の苦手な体の使い方（日常生活に必要な手先・指先の細かい動き、足や手の動きなど）を日常生活や遊びを通して訓練していく。	・ 製作（季節のもの、行事のもの） ・ トイレトレーニング
基本的な生活スキルの獲得	食事、衣服の着脱、排泄など、生活に必要な基本的な生活スキルを獲得し、身の回りの自分のできることは自分でできるように支援していく。また、自分の持ち物の管理や使った物の片付けなどを自分で行なう習慣が身につくよう支援していく。	・ 衣服の着脱 ・ 食事（おやつ）時の姿勢 ・ 持ち物管理
構造化等により生活環境を整える	様々な活動の中で、行動の切り替えができるよう学習し、構造化（「どう動いたらいいの」「何をしたらいいの」をお子様自ら考え、安心して行動できるようにするための方法）を意識した指示や掲示物等で環境を整える支援を行う。 また、障害特性や発達状態に合わせ、タイミングや状況を子どもが理解しやすいよう「見える化」するなど分かりやすく構造化する。	・ 時間を見て行動する。 ・ 構造化を意識したイラスト等の掲示、絵・言葉カードの提示をする。